

次

- | | | | |
|----|---|-----|-------------------------------------|
| P2 | 入浜定点観察②及び維持管理作業
宮島ラムサール条約連絡協議会が発足 | P7 | 会員自主研修会「救急救命講習会」
包ヶ浦海岸清掃 |
| P3 | 会員自主観察会②
H25 年度環境の日広島大会
今年の極楽寺山のキノコ観察 | P8 | 会員自主観察会③トンボ生息地調査
厳島神社前清掃 |
| P4 | H25 年度公募観察会①大鳥居周辺
干潟観察会 | P9 | 入浜定点観察④及び維持管理作業
自然公園クリーンデー |
| P5 | 公募観察会①干潟観察会アンケート
結果 | P10 | 宮島二流記（その１６） |
| P6 | 入浜定点観察③及び維持管理作業 | P11 | 国土交通省・海事関係功労者表彰を受ける
2013 年春 雑詠十句 |



<<

御手洗川上流に向かう砂泥地では1～2cmの**チゴガニ**の雄が一斉に両手（ハサミ脚）を振上げて（ウエービング）いる様子をみんなに観察してもらいました。そばの水路の石をめくると**チチブ**（ハゼ科）の卵と保護しているオスを見ることができました。

(関連記事は3・4・5ページ参照)

(文・写真：呼坂 達夫)

入浜定点観察② 及び維持管理作業

日 時：5月25日（土）9：00～12：00

天 候：晴れ

参加者 小川 恩田 川崎 黒木
小林ペア 佐伯 佐藤(佐) 末原 松田
村上 柳瀬 横路

【環境整備】

水路の土のう積みは、人為的に壊されたのか、イノシシによって壊されたのか不明ですが、壊された場所を復旧。その後海辺のゴミ拾いを行った。

【植物調査】

池周囲の植物のツボミ、花、実の状況をチェックしながら観察する。ナンゴクウラシマソウは、仏炎苞やその中から出ている付属体の釣り糸状のものが枯れかけていたのでもう終わりか！カナメモチは優しく咲き、イワタイゲキは実がなりかけていた。ヘビイチゴは実をたくさん付けていた。

フェンス入口のカンコの木に巻き付いていたのはハマニンドウかと思っていたが、スイカズラだそう。ウグイス等の鳥の鳴き声もたくさん聞くことが出来た。

【水質調査】

池から水は少しづつ出ている。この日は大潮だったが水路まで海水は入っていない状況。雨が降っていないので水量は少ない。

塩分濃度はほとんどの箇所 0.08%

CODはA・B地点 13、E・F地点 20
(単位はmg/l)。水温はA地点 26℃、
B地点 13℃、E・F地点 25.6℃

イノシシが水路のようなものを作っていたが、ヌタ場にするのか？

【昆虫類】

トンボですが、数は少ないが種類は多かった。一番多かったのがシオカラトンボで、他にシオヤトンボ、イトトンボの仲間のミスジイトトンボ、アオモンイトトンボ、クロイトトンボ。いずれもため池や河口部に生息するトンボ類です。

今日羽化したばかりのタイリクアカネが見られたが、なんだか動きは鈍そうでした。

赤トンボを代表するショウジョウトンボは未だ成熟していないことがわかる（羽化

したすぐの未熟期の体色は橙色で、いつの時期からかわからないが、夏の暑い成熟期には鮮やかな赤色になる）。その他成虫のまま越冬するホソミオツネントンボ。

ヤンマの仲間のギンヤンマ、クロスジギンヤンマ（春先によく出てくる）やオニヤンマにそっくりなオオヤマトンボが池の周りをぐるぐる飛び回っていた。計 11 種

【魚類】

チチブ、メダカ他にヌマエビの仲間ケエビ？オタマジャクシも見られた。水草やヒトモトススキ等の水生植物がたくさんあるところしか生息しないダルマガムシなど、毎回色んな発見がある入浜調査でした。

(文・写真 小林 颯)



羽化した直後の
タイリクアカネ



成虫のまま越冬する
ホソミオツネントン

『宮島ラムサール条約 連絡協議会』が発足

昨年7月にラムサール条約に登録された、宮島の湿地の保全や賢明な利用を進めるため、表記協議会が設置され、その初会合が8月1日廿日市市役所で開かれました。

同協議会は、当会を含む宮島の関係団体、行政、学識経験者など14個人・団体から構成され、事務局は廿日市市環境政策課です。

会合（村上、末原、柴原自然保護官出席）では、先行する「ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会」とも連携を図りながら、登録湿地および宮島の環境保全活動を進める行動宣言が採択され、また宮島の環境保全の課題について、それぞれの立場から意見交換された。次回は10月で、次年度以降の活動計画が協議されます。(文 村上光春)

会員自主観察会②

大鳥居周辺干潟公募観察会・下見

日 時：5月26日（日）10：00～15：30

天 候：晴れ

場所：大元公園無料休憩所、大鳥居周辺干潟

参加者：岩崎 金山 川崎 北野 小林(勲)

佐藤(佐) 田中 兎谷 平田(広) 村上

横路 呼坂

環境省 大高下 AR

晴れて絶好の干潟観察日和でした。午前中は本番さながらのパワーポイントを用いた座学でした。講師の金山会員は「広島県海岸・干潟生物調査マニュアル(改訂版)」を用いての調査方法や安全管理について、同じく講師の呼坂会員は手作りの『自然観察会「海岸編」観察テキスト』により、干潟・干潟の生物（カニ類・貝類・海藻ほか）や磯の指標生物についての説明でした。

午後は干潟での観察や実験でしたが、内容は本番の記事（次ページ）とダブりますのでそちらを参照してください。

前日の入浜定点観測に続く行事でしたので少し参加者が少なかったようです。また本行事は公募観察会（6月8日）のガイド補佐、サポーターの養成のためでした。

（ 文 平田 広三郎 ）

平成 25 年度

《環境の日・広島大会》

日 時：6月2日（日）10：00～16：00

場 所：広島県庁前広場

主 催：「環境の日」ひろしま大会

実行委員会

参加者：岩崎 平田 村上

環境省 榊自然保護官

梅雨時期の最中 朝から小雨の降る少し肌寒い気候の日でしたが大会は実施されました。宮島 PV の会は、環境省広島事務所のブースの一角を借りて、「環境省 瀬戸内海国立公園・宮島地区パークボランティアの会」と題した当会の活動状況を表すパネル（大高下さんの手製）を2枚展示しました。環境省のブースへのお客さんは11時過ぎから親子連れの方が増えてきましたので、少しは PR できたかなあつという感

じでした。



（ 文：平田広三郎 写真：岩崎 義一 ）

投稿：今年の極楽寺山のキノコ観察

この5年来毎年7月の始めの時期に極楽寺山にウスキキヌガサタケ観察に通っている。今年は PV の会の行事としては実施されなかったが、7月10日に出向いた。昨年（7月7日）は大雨の翌日だったが、今年は早くも梅雨が明け太陽が照りつける快晴。

さて 時期を逸したかと思いつつ現場にたどり着くと、昨年の80本余りの多さには及ばないものの、およそ20本余り確認できた。尾根道に6本、北斜面にも散在していた。内今朝からのものが8本ほど。

タマゴタケは車道脇のいつもの場所に見つかったが、昨年見た「蛇の池」周辺では確認できなかった。帰路 観音寺への町石道に、初めて2本のタマゴタケを見つけたことができた。



左：ウスキキヌガサタケ 右：タマゴタケ
（薄黄衣笠茸）

（ 文・写真 岩崎 義一 ）

平成 25 年度 公募観察会①

『大鳥居周辺干潟観察会』

日 時：6月8日（土）11：00～15：30

天 候：晴れ

場所：大元公園無料休憩所、大鳥居周辺干潟

参加者：小方（為） 金山 北野 黒木

小林ペア 小林（寛） 佐藤（佐） 島 末原

兎谷 中道 錦織 平田（広） 舩田 村上

横路 呼坂

環境省 榊自然保護官 大高下 AR

公募参加者 32名（11家族、3個人）

当会では初の公募干潟観察会である。子供（6～8歳）13名を含む11家族32名の参加。

受付近くに置いた「オオアカフジツボ」の入った小瓶。水の中のリズミカルな触手の動きに、参加者は写真を撮るなど興味津々。観察会のムードが盛り上がる。

午前中は、無料休憩所で干潟の生物の生態など、パワーポイントを使つての座学。宮島では干潮時、潮位が 80cm 以下ならば大鳥居近辺まで干潟になるという。今日は 33cm で観察には十分である。

干潟で見られる多くの穴は、アナジャコやテッポウエビ、カニ達の巣穴だ。『その中の構造は？』・・・呼坂講師が樹脂を流し込んで造った苦心の型物で、生物達の種類による違いが良くわかった。

午後、二班に分かれて海辺に降りる。

子供達は水際へ走り寄り、「このカニは何？」。やはり動くもの真っ先に目に入る。

岸壁の石垣には、小さなイワフジツボや海水から脱出するが如くタマキビガイが乾燥した場所に付着している。

『アラムシロって海の掃除屋さん？』・・・潮溜まりからの流れの中にカタクチイワシの死骸を一匹、置いてみる。一斉に小さな巻貝が下流から動き始める。匂いを嗅ぎつけたアラムシロだ。観察会の終わり頃にもう一度来て見ることにする。

砂泥地で「潜望鏡の子ゴガニ」や「白扇のシオマネキ」の動きを、遠くからそれぞれ双眼鏡で観察する。

御手洗川の砂地でカニの脱皮の殻、川の流

れの中で石の裏側にびっしりと着いた魚の卵を発見。子チブ（ハゼ科）の卵だ。そばに卵を守るかのようにオスが一匹逃げずにいる。

厳島神社の回廊の下の泥地ではハクセンシオマネキ（白扇潮招き）の観察、大鳥居では立っている仕組みの解説を受け、『何種類いるかな？』と近くの観光客たちと一緒に、支柱に付着した貝類を観察する。



ハクセンシオマネキ

大鳥居沖の砂泥地で、いよいよマテガイを観察する。「やった！出てきた！」と歓声があちらこちらから上がる。食塩を穴の入口に盛ると、潮が満ちてきたと感ちがいたマテガイが「ニヨキッ！」と現れる姿は微笑ましい。用意したスコップやシャベルで表面の泥を薄く削ぎ取って、それらしき穴に塩を盛るが、なかなか巣穴が見つけれずに苦戦する人も。瞬く間に時間が過ぎる。

帰り際、最初の「海の掃除屋さん」の場所に行ってみると、「わっ！貝が一杯たかっている魚が見えない！」。貝を取り除いてみると、イワシは背骨と皮を残すのみの姿になっている。アラムシロが食べ尽くしたのだ。見つめる子供たちの微妙な表情の変化。

海辺での小さな生き物たちの食物連鎖、生存のために身を守る工夫、生命を継ぐ求愛行動や産卵、成長過程の脱皮。子供たちの眼にはどう映ったのだろう。

今回は海浜干潟の観察会で海藻類はほとんど見られなかったが、磯での生物観察も行いたいと思った。

ラムサール条約に登録された海浜の残る「宮島の自然」。それを護る大切さを伝えていきたいと思う一日でした。

（ 文： 横路 晃 写真： 呼坂 達夫 ）

— 干潟での観察状況の写真は表紙を！ —

「公募観察会」①

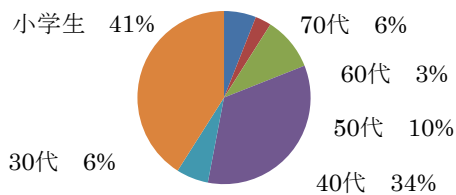
干潟観察会・アンケート結果

(参加者 32名 11家族+3個人 回答 13)

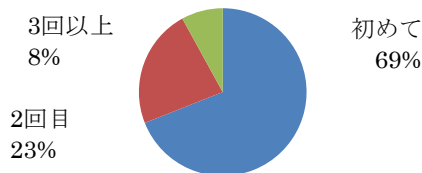
■ 参加者の性別



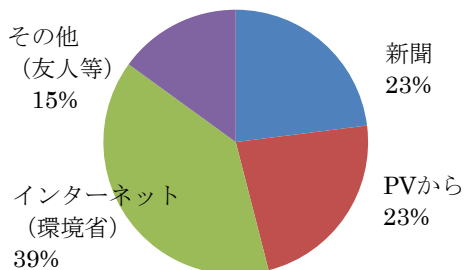
■ 参加者の年代



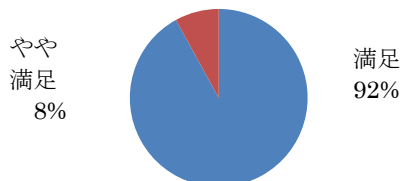
■ 「公募観察会」への参加回数



■ 行事を知った方法



■ 行事に対する感想



■ 「観察会」の内容について

- ・思いきり遊べました。

- ・多くの生き物を観察できてよかった。
- ・宮島の珍しい生き物に出会えて感動しました。
- ・いろいろ実験していただき、わかりやすかった。
- ・マテガイがとてもよかった。
- ・カニやドカリが意外とどう猛だったことにビックリ。
- ・マテガイを採りたかった。
- ・干潟の現場の観察は楽しかったです。日頃見られない視点での丁寧な説明もよかった。
- ・貝やカニがあんなに見事に魚をたべつくすとは！
- ・貝やカニ、エビの仲間の観察ができてよかったです。すんでいる場所の違いなど。
- ・マテガイ採りがおもしろかった。

■ 講師・テキストについて

- ・非常に内容のよい資料をいただき参考になりました。
- ・帰ってじっくり見たい。
- ・丁寧に説明していただきました。
- ・鳥居についてよくわかった。
- ・子供たちの自由な行動に付き合ってください申し訳なかった。
- ・わかりやすかった。
- ・たいへんよかったです。
- ・テキストも干潟で見られる生物の種類もたくさん案内されていてよい。講師の先生もわかりやすく説明いただき勉強になりました。
- ・めずらしいもの(カニ等、体験を含め楽しかったです)大変参考になりました。

■ 意見・要望

- ・HP でイベントを知り倉敷から参加しました。また このような行事があれば参加したい。
- ・来年も是非開催してください。良い機会をありがとうございました。
- ・浦の島もみてみたい。
- ・今日は曇りでしたが、これから晴れると熱中症が心配です。
- ・砲台跡(鷹ノ巣砲台)、広大自然植物研究所など、再度企画がほしい。

(まとめ 舩田祐子)

入浜定点観察③ 及び維持管理作業

日 時：6月22日(土) 9:00~12:00

天 候：晴れ

参加者 大西 小川 黒木 小林ペア
小林(寛) 佐伯 佐藤(佐) 渋谷 末原
兎谷 中道 平田(広) 村上 山崎 横路
六重部

【環境整備】平田(広)

数日来の雨で気の付く会員の方は来島前に宮島口で「幻の滝」を見てきたそうです。

水路の土のうは壊されていなくて、普段より多めの水が順調に流れていました。

池の水位が高かったのも、海浜のゴミ拾いをしましたが、以前に比べてだいぶ減ったような気がしました。



【植物】六重部(口述) 小林ペア 山崎

栈橋から入浜まで歩いてみたが途中、白い花がたくさん見られた。特にハマニンドウ(浜忍冬：左の写真、撮影 黒木隆信)がよく目についた。入浜池の奥側にある鹿の保護施設の中を外から見たが、現在は鹿も入っていない

ので植物は食べられていなかった。そのような状況の中なので、この付近では見られない植物がたくさん見られた。特に外来の植物いわゆる帰化植物がたくさん蔓延っていた。そして池の周りでは去年は少なかった木の実が今年はたくさん実をつけていたので、この秋には赤い実とか黒い実が見られて楽しませてくれるでしょう。

【水質】小川

2日間大雨警報が出続けた翌日の調査でした。池には周辺から多量の水が流入し、海への水路も回復されて順調に流れ出ていました。水路の流量を一枚の葉を利用して測ったところ、およそ $0.042 \text{ m}^3/\text{秒}$ でした。また 山水の流量はおよそ $0.011 \text{ m}^3/\text{秒}$ で多かった。

水位は B 地点で +8 cm

塩分濃度は全地点で 0.00%

COD は、A・B・C・C' 地点で 5、D・F

地点で 10、E 地点で 13. (単位は mg/ℓ)

池の中や水溜りには小さなオタマジャクシが多数。周りには稚ガニ、水面にはアメンボが目立っていました。

【野鳥】大西

多くの野鳥はちょうど子育て中。この狭い観察地域で、それらの様子を観察できたのはとても嬉しかった。

シジュウカラ(餌運び・巣立ち雛を連れた親が誘導しながら移動し電線上で給餌)、コゲラ(幼鳥 2羽)、ホオジロ(S・ペア)、エナガ、メジロ、ヤマガラ、ハクセキレイ、ミサゴ、トビ、ハシボソガラス、コサギ、ホトギス(S)、ウグイス(S)、アオゲラ(S)、センダイムシクイ(S)、コチドリ(2羽、個人的には当地初見、裸地で警戒音、繁殖か?)

右の写真：松田賢
撮影 6月30日)



コチドリ

【昆虫】松田

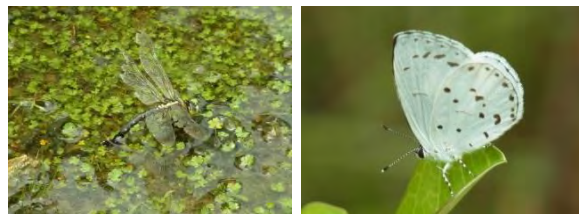
(6月30日の自主
観察データー)

・トンボ 7種：

ウスバキトンボ

(優占種)、クロスジギンヤンマ(産卵中、6月22日)、ムスジイトトンボ、アオモンイトトンボ、ギンヤンマ、シオヤトンボ、シオカラトンボ、コシアキトンボ

・トンボ幼虫：イトトンボの仲間がいたが若齢で同定に至らず。



左：クロスジギンヤンマ 右：サツマシジミ

撮影 小林 6月22日

- ・チョウ 4種：サツマシジミ(多数、地上で吸水するもの有)、アオスジアゲハ、モンキアゲハ、ヒメアカタテハ
- ・水生生物：ヌマエビ(卵抱え)、ナミアメンボ(多数)、チチブ、メダカ(小さい)
- ・その他：アカテガニ(真っ赤)、マムシ、ニイニイゼミ(初鳴き)、トノサマバッタ(成虫・初見)

会員自主研修会

「救急救命講習会」

日 時：7月6日（土）9：00～12：00

場 所：宮島市民センター

講 師：宮島消防署 4名

出席者 足立 岩崎 奥田 川崎 北野
黒木 小林ペア 小林(寛) 佐渡 佐藤(佐)
末原 兎谷 平田(広) 檜和田 村上
山崎 横路 吉崎 呼坂

環境省 榊・柴原自然保護官 大高下 AR

内容：DVDでの事例学習、心肺蘇生実習と
AEDの使用訓練、止血法訓練（ビニール袋や
三角巾の使用）

今回の改訂点は、①呼吸を確保するときに
気道確保を行わない ②人工呼吸より優先し
て胸部圧迫から心肺蘇生を開始 ③胸骨圧迫
の深さを、少なくとも5cm沈むように ④胸
骨圧迫のリズムを少なくとも毎分100回 ⑤
小児に対しても成人と同じ方法 ⑥小児パッ
トの使用を未就学児からの六点です。



救命措置の実習

研修途中で突然大雨が降り、廿日市のがけ
崩れで人命が失われたことも頭をよぎり、研
修への取り組みも一段と熱を帯びていました。

我々市民が心がけることは、①危険な状況
に陥らないように注意 ②異常な人を見たら
119番に通報し、AEDを持ってくる ③救命
措置として心肺蘇生とAEDの実施であり、
とっさの場合、躊躇することなく、救命措置
をできるように定期的な訓練が必要と感じた。
心臓が止まり3分過ぎると社会復帰が難しく
なるという事実を胸に、異常時の対応を心が
けようと思った。

最後に出席者全員に「普通救命講習Ⅰ」の
修了証が交付された。

（ 文 佐藤佐十四 写真 平田広三郎 ）

【包ヶ浦海岸清掃】

日 時：7月13日（土）9：00～14：00

天 候：晴れ

参加者 足立 岩崎 大西 奥田 恩田
河村 北野 五石 小林ペア 小林(寛)
佐伯 坂本 佐藤(佐) 佐藤(庸) 島
末原 兎谷 中道 野呂田 平田(広)
檜和田 村上 山崎 六重部
環境省 榊自然保護官

清掃は好きな活動だ。

目に見えてきれいになる。結果がわかる。

特に夏の稼働は気持ちよい汗が流れる。

ゴミ拾いの中ごろ高価なモーターボートで
5～6人の家族が着岸。小学生の水着姿の姉妹
が父親に抱っこされ砂浜に。なんとも可愛い
セパレートのピンクの水着だ。

「おはよう」と声を掛けると無邪気な返事
が返ってくる。

「きれいにして頂いて、ありがとうございます
ます」と父親。

この熱中症になりそうな炎天下に手伝いも
せず海水浴とはとやや怒りをおぼえたが、姉
妹と気取らない父親の言葉に納得。

11時半頃作業は終わり、次は昼食、バーベ
キュー。会場へと歩く途中パラパラと恵みの
雨。なんとこの大粒の雨だれ、きもちのよい
ことか。

バーベキュー会場（キャンプ場）は若者の
グループでいっぱい。

我々年寄りグループが到着すると、島さ
ん・野呂田さん達が炭をおこし、肉・野菜は
準備万端、ビールまで取り揃え、早速焼肉へ。



今年も無事、包ヶ浦の清掃は終わりました。

来年も汗を流して、打ち上げは焼肉かソー
メン流しか、それとも、と期待しています。

（ 文 佐藤 庸夫 写真 平田広三郎 ）

会員自主観察会③

『トンボ生息地調査』

日 時：7月20日（土）9：00～14：00

天 候：晴れ

場 所：宮島

参加者 岩崎 大西 小方(嗣)小川 奥田

川崎 北野 黒木 小林ペア 小林(寛)

坂本 佐藤(佐)末原 兎谷 中道

野呂田 檜和田 舩田 松田 村上 山崎

横路

環境省 柴原自然保護官 大高下 AR

当会は、これまで環境省広島事務所と連携・協力して、ミヤジマトンボ生息地の環境整備活動に努めてきました。

この度、これまでの活動が関係者からそれなりの評価をいただき、本年度から「ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会（事務局：広島県自然環境課）」の正式メンバー・協力団体として活動することとなりました。

また、今年度8月に発足する「ラムサール条約連絡協議会（事務局：廿日市市環境政策課）」の委員も担うことにもなりました。

これまでの当会が参加した環境整備活動は、トンボがほとんど飛翔しない秋～冬場での、生息地の水路や汽水地の保全作業が中心で、実際に生息地でのミヤジマトンボ生息状況や飛翔する姿、生息地勢を見た会員は多くはありません。

そこでこの機会に、これからの環境整備と保全活動をより効果的に進めるため、ミヤジマトンボ協議会の同意を得て、環境省自然保護官の指導のもとで、ミヤジマトンボ生息地の観察会を実施しました。



観察要領を聞く参加者達(写真:川崎昭壽)

観察会当日は、時刻的にも、季節的にもトンボの出現数が多い時期であり、また好天に

も恵まれ、生息地を乱舞するミヤジマトンボ・・・縄張りをパトロールしているトンボ、ランデブーしている番（つがい）のトンボ、葉先や杭先に止まって考えごと？をしているトンボ、ススキの根っこで休養？しているトンボ、突然襲ってくるツバメに狙われたトンボなど・・・シオカラトンボを少しスマートにしたトンボ達をじっくりと観察し、その生態を堪能しました。



ミヤジマトンボ

一方生息地周辺を見回すと、生息の中心となっている汽水池と群生するヒトモトススキ、海へつながる水路と干潟・砂丘、周辺を取り巻くハマゴウ等の海浜植物、自然森林そして山間からの湧出水など、生息地が自然や地勢の微妙なバランスの上に成り立っていることが分かりました。開かれた海からの時ならぬ波浪に対し、この微妙な地勢バランスはどう耐えるのか、これからの環境保全活動の大きな課題の一つと思いました。

奇跡的に残された宮島の自然海岸と絶滅危惧種のミヤジマトンボ。汽水池の保全策と希少生物の保護策について画期的な知恵はありませんが、これかれもできることから地道に取り組んでいきたいと思います。

（ 文 村上光春 写真 松田賢 ）

『厳島神社前海浜清掃』

日 時：7月22日（月）13：00～15：00

天 候：晴れ

参加者 岩崎 大西 恩田 川崎 河村

菊村 五石 小林(勲)小林(寛)佐藤(佐)

佐藤(庸)末原 中道 錦織 平田(広)

宮本 村上 柳瀬 山本 吉崎

特別参加 イフェオルワ・カヨデ

（女性 ナイジェリア出身）

当日は、浜風も少なくうだるような暑さでした。清掃作業の方は、アオサが少なかったので除去はやめ、 （以下 次ページ）

御笠浜周辺のゴミ拾いと神社から大鳥居に向けて、危険なカキ殻・陶器の破片やガラス片の除去でした。

特別参加のイフェさん(通称)は、10月から広大大学院 博士課程後期(専攻は観光地理学)に入学予定の研究生です。予定の指導教官であるフンク・カロリン准教授(エコツーリズムの研究者で宮本会員の指導教官 ドイツ人女性)のアドバイスで参加。



宮本会員
イフェさん
左から
村上会長

最後に例年どおり神社のお祓いを受けましたが、外国人観光客にはこの行事が珍しいのか注視的でした。

(文・写真 平田広三郎)

入浜定点観察④ 及び維持管理作業

日 時：7月27日(土)9:00~12:00

天 候：晴れ

参加者 大西 小方(嗣) 小川 奥田 恩田
川崎 小林ペア 末原 兎谷 中道 錦織
松田 村上 山崎 横路

【環境整備】末原

水路が少し壊れていたところの補修

水路も潮の出入りがあると砂も流れやすくなったのか砂が入り口付近にたまっている。沢山たまったらまた、除去する必要がある。

ゴミはトラック1台分収集が、今回は発泡スチロールが多かったように見えた。

【植物】小林(み)

万両に可憐な小さな花がついていた。

紫色のハマゴウが特によく目立つ

保護施設の中に2頭の鹿が療養中(?)餌はたっぷりある所。

【水質】小川

奥側の方は山からの水がしみ出ている。

塩分は0.00% ただしA地点(道路側)は0.25% F地点(出口)は1.2% 海水は2.7%

【野鳥】大西

4、5、6、月は繁殖に当たり、ホオジロの幼鳥やカワラヒワが5、6羽群れで飛んでいるがファミリーではないかと思われる。この時期の様子をよく表している。

鳥は季節を早取りするので8月には渡りが始まる。旅鳥のサメビタキ(?)だろうと思われる鳥も確認する。

【昆虫】松田

トンボは7種類確認する。一番多かったのは夏の間には繁殖を繰り返すウスバキトンボ。水面をパトロールしているギンヤンマ。トンボ科ではコシアキトンボ、オオシオカラトンボ、シオカラトンボ、このあたりが沢山見られた。草地のところにハラビロトンボ、イトトンボの仲間はアオモンイトトンボだけ確認する。気温が高いせいか茂みに入っている個体が多かった。



ハラビロトンボ

【水生生物】

松田

メダカ チチブ、クサフグ、ボラの群れ、テナガエビ

砂浜では夏の風物詩にもなっているヤマトマダラバッタ(広島県準絶滅危惧種)、ハマゴウの花にやってくるキヌゲハキリバチが沢山飛んでいた。

『自然公園クリーンデー』

日 時：8月4日(日)9:00~11:30

天 候：曇り一時雨

参加者 岩崎 川崎 菊村 五石 小林(勲)

佐藤(庸) 渋谷 末原 田中 兎谷 錦織

平田(広) 村上 柳瀬 山崎 横路

環境省 加藤所長 柴原自然保護官

廿日市市役所 7名 宮美会 7名

蒸し熱い中、①西松原~大元~紅葉谷②うぐいす道~紅葉谷③宮島栈橋広場・要害山周辺④浜之町~有之浦公園地⑤宮島栈橋~杉之浦・包ヶ浦栈橋の5班に分かれて清掃作業を行った。道下のガケに蛍光灯が十数本捨ててあったのには唖然としました。

(文 平田広三郎)

宮島二流記 (その 16)

平田 広三郎

Q16:「管絃祭の御座船はなぜ宮島と地御前を往復するのでしょうか？」

かねてから疑問に思っていたのですが、「往復」という言葉に注目すると、そこには管絃祭のルーツが隠されているのです。

A16:「宮島の宗教行事の変遷がわかるようです。」

旧 6 月 17 日に行われる管絃祭は、古くは「船管絃」と呼ばれ、厳島神社を造替した平 清盛が、都で盛んに行われた「管絃の遊び」を宮島に移したものとされています。管絃の遊びとは苑池や河川に浮かべた竜頭鷁首（げきしゅ）の船上での三絃・三鼓・三管の合奏です。清盛は宮島に移すに際して海を用い、また遊びではなく厳島大明神を慰め奉るために行ったとも言われています。それでは何故時には危険が伴う内宮（厳島神社）から外宮（地御前神社）まで往復するコースを選んだのでしょうか。

宮島も修験の島（山）ですが、寺に属する修験者には春峯、夏峯、秋峯、冬峯と呼ぶ四季の入峯（にゅうぶ）修行があります。入峯は、古くは百日・九十日・七十五日とかを、山中を歩いたり籠ったりしますが、終わったら寺や村に帰ります。これを出峯（しゅつぷ）と言い、この時三つの行事が行われます。一つは山の神を村へ迎えてお祭りをすること。二つは修行中に得た験力（げんりき：蛙飛びや兎跳び）の試験。三つは入峯修行の慰労の祝宴と芸能です。このような出峯の行事を総括して「蓮華会（れんげえ）」と呼びます。

その例は、琵琶湖に浮かぶ竹生島（ちくぶ：宮島の大願寺と並んで三大弁財天のあるところ）の蓮華会は旧 6 月 15 日に管絃船で渡御しての芸能祭を行い、隠岐国分寺の蓮華会は同じく旧 6 月 15 日から三日間行われ、今は「蓮華祭」となっていますが、陵王・仏舞・太平楽・林歌（りんが）・貴徳・抜頭（ばとう・ばとん）などの舞楽が残っています。弥山の水精寺に属する修験者も夏峯（旧 4 月 8 日～6 月 15 日）の蓮華会を人の住む地御前で行なったことでしょう。

そのため地御前から宮島まで、出峯の修験者を迎える「往復」の船が出たのです。水精寺（本尊は仏像の形をした水晶）は沙門堂跡にあった修験者の寺だったようですが、「厳島図会」には二王門と大日堂の間に水晶岩があったことが記されています。

それでは何故「蓮華会」が神社の「管絃祭」になったのでしょうか。

佐伯景弘は清盛の家人になり、朝廷から官位・官職を貰い、京の都へ繁々と登ることとなります。そこで目にしたのが華やかな京の「祇園祭」ではなかったのでしょうか。

祇園祭はもともと川祭りで、中世以前は「祇園御霊会」といって、特に夏の疾病の原因を死者の霊魂が荒れすさぶ怒りと考えて、これを鎮めるため川へ流す鉾流しの祭でした。巨大な鉾山車（ほこだし）となって川に流そうにも流せなくなったのは、祭に力を入れた南北朝時代の守護大名や裕福になった町衆が関わった以降なのです。

「在京の神主」と言われるようになった景弘は、厳島神社の造替はなったが今一つ盛り上がるの行事を欲して、弥山の水精寺の「蓮華会」の「往復の船」を思い起こし、「蓮華会」を「船管絃」にすることを清盛に進言。以降「管絃祭」とされ、厳島神社からの「往復」としたのでしょ

う。安元 3 年（1177）の平 宗盛（清盛の三男）は、水精寺に対してこの年に限って少し異常な動きをしています。氏寺でもない水精寺で各種の祈祷をしたり、阿闍梨一口を新たに置いたり、治承元年（改元：1177）の銘の入った梵鐘の奉納のことです。これは父清盛が祭を移したことについて、同寺に対する贖罪の表れだったのでしょうか。

水精寺は地御前付近にあったとする説もありますが、行事の内容は変わりません。

次回 Q17 は「求聞持法とはどのようなものなのでしょうか？」です。

参考文献

*「宗教歳時記」 五来 重 角川選書
昭和 53 年

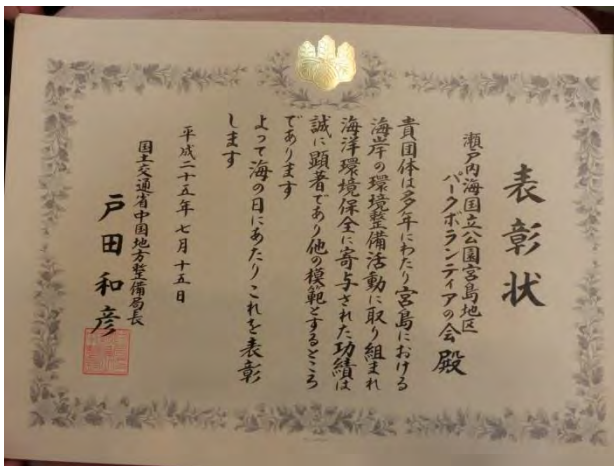
*「管絃祭・玉取祭」 (社) 宮島観光
協会・厳島神社編 2001 年

*「安芸厳島社」 松岡久人
(株) 法蔵館 昭和 61 年

『国土交通省・海事関係 功労者』表彰を受ける。

この度、当会は平成 25 年「海の日」に
当たり、国土交通省中国地方整備局から「海
の日・海事関係功労者」表彰を受けました。

これは当会が多年にわたり取り組んでき
た、小なきり浜・包ヶ浦・厳島神社前海浜・
入浜などの宮島海岸の環境整備活動が、海
洋環境保全に顕著に寄与したと評価いた
だいたものです。



【表彰式典】

日 時：平成 25 年 7 月 17 日（水）
場 所：グランドプリンスホテル広島
主 催：国土交通省中国地方整備局
参加者：村上 末原 大高下 AR

式典では、44 個人・団体へ「表彰状と記
念品」とが授与されました。



これを励みとして、これからも背伸びせ
ずに、地道に、瀬戸内海国立公園宮島の環
境整備活動に努めていきたいと思ひます。

（ 文 村上光春 写真 末原義秋 ）

投稿

『二〇一三年春
雑詠十句』

黒木隆信

凍返る干潟ニキロの探鳥会
春潮に乗りて駆けつけ手弁当
コバンモチの保全調査や木の芽風
引き潮に骨組み晒し上り築
ヒサカキの香のふんぷんと木の芽道

白銀の絮吐く英や桜東風
囀りや室浜砲台観察会
指呼の間に來ては囀る番かな
潮騒に色を深むる藪椿
僥倖を拝す江之浦山桜

◇ 編集後記 ◇

観光（tourism）とは、中国の古典『易経』
に「国の光を觀（み）る」とあるのに由來し、
その国や都のすばらしいさまを目にするとい
う意味です。観光地に居る私達には、その土地
の良さを示し、観光客の期待に応える姿勢が必
要です。（8月5日「読売新聞」引用 平田広）

瀬戸内海国立公園
宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
（〒730-0012）
広島市中区八丁堀 6 番 30 号
広島合同庁舎 3 号館 1 階
TEL082-223-7450, FAX082-211-0455